

カンボジア

Kingdom of Cambodia

	2008年	2009年	2010年
①人口:1,340万人(2008年)			
②面積:18万1,035km ²			
③1人当たりGDP:814米ドル (2010年)			
④実質GDP成長率(%)	6.7	0.1	6.3
⑤貿易収支(米ドル)	△18億	△16億3,400万	△16億8,900万
⑥経常収支(米ドル)	△13億8,100万	△12億300万	△12億2,900万
⑦外貨準備高(米ドル)	21億6,400万	23億6,700万	26億5,300万
⑧対外債務残高(米ドル)	28億800万	30億5,400万	35億1,400万
⑨為替レート(1米ドルにつき、 リアル、期中平均)	4,054.17	4,139.33	4,184.92

【出所】①カンボジア計画省、②国連(統計年鑑)、③IMF(WEO)、④～⑧アジア開発銀行(ADB)、⑨IMF(IFS)

■2010年は不況からの回復期

アジア開発銀行(ADB)によると、カンボジアの2010年の実質GDP成長率は、2009年の0.1%から回復し、6.3%となった。2009年は米国向け縫製品輸出の落ち込み、外国人観光客の減少、建設プロジェクトの中止・延期などが深刻化したが、2010年は先進国や周辺諸国の経済成長の恩恵を受け、輸出、外国人観光客が増加し、不況からの回復期となった。現在、カンボジア政府は縫製品の対米輸出依存体質を脱却すべく、縫製品輸出先の多角化(欧州や日本、アジア向け輸出の強化)、縫製品以外の産業の多角化・高度化に取り組んでいる。

■2010年は輸出入ともに増加

商業省の統計によると、2010年の輸出は前年比12.0%増の55億8,356万ドル、輸入は25.5%増の48億9,678万ドルとなった。輸出の増加は、米国向けを中心に衣料品が23.3%増の29億4,158万ドルとなったことが主因であり、また履物も62.9%増の1億7,627万ドルと伸び率が大きかった。輸入については、織物が前年の4.9倍の18億3,906万ドルとなったことが増加の大きな要因であった。国・地域別の貿易をみると、輸出では米国が1位、以下、香港、シンガポール、カナダと続いた。輸入では、中国が1位、以下、タイ、香港、ベトナムと続いた。

日本の貿易統計(通関ベース)をドル換算すると、2010年の日本からカンボジアへの輸出は、前年比40.8%増の1億5,828万ドルとなった。縫製企業の進出増加に伴い編機の輸出が増え、また工場や商業施設の建設需要に伴いクレーンなどの機械類の需要が増え、輸出が2.1倍となったことなどが主因であった。一方、日本のカンボジアからの輸入は46.6%増の2億914万ドルとなった。これは製靴が24.6%増、縫製品の輸入が約2倍と堅調に増加したことが要因であり、カンボジアにおいて軽工業の進出が進んでいることが背景にある。

■注目が集まる経済特区への進出

CIB(カンボジア投資委員会)によると、2010年の外国直接投資額(認可ベース)は、26億9,080万ドルと2009年に比べ54.1%減少した。業種別では、サービスが前年の3倍を超える伸びを示し、10億5,910万ドルで1位となったものの、これに続くエネルギー関連が5億8,880万ドル(11.4%減)、農業関連が5億5,440万ドル(6.0%減)などと減少した。鉱業は約7.7倍となり、縫製、履物、食品加工などの製造業も前年比でそれぞれ42.8%、71.9%、約3倍と増加し、軽工業への企業進出の増加がうかがえる。

国別で見ると、韓国が10億2,660万ドル(11件)と投資認可総額の38.2%を占め1位、以下、中国(6億9,420万ドル、18件)、マレーシア(1億6,740万ドル、5件)と続いた。ただしこの数値は、CDC(カンボジア開発評議会)が優遇措置の付与を認可した「適格投資案件(QIP)」以外の投資案件や、経済特区内での認可額は含まれていない。経済特区内での投資認可額はCSEZB(カンボジア経済特別区委員会)が発表している。2010年の日系企業のカンボジアへの進出はすべて経済特区内であり、CSEZBによると総額3,533万ドルの投資が許可された。

■相次ぐ日系企業の進出

カンボジアにおける企業進出の受け皿である経済特区(Special Economic Zone: SEZ)は21カ所が認可されている。その中で特に、①プノンペン郊外のプノンペンSEZ、②南部港湾都市シハヌークヴィルに立地する、日本の資金協力によるシハヌークヴィル港SEZ、および、中国資本によるシハヌークヴィルSEZ、③ベトナム国境に近接する東南部バベットでのマンハッタンSEZ、および、タイセン・バベットSEZ、④沿岸部タイ国境に位置するココンSEZへの進出関心が高い。

プノンペンSEZには、既に味の素(調味料)、ミネベア(小型モーター)、タイガーウイング(婦人用革靴製造)、グリーンサークル(婦人用革靴製造)、ハルプノンペン(古本

再生), プロシーディング(和服仕立)の日系6社を含め、マレーシア、台湾、シンガポールなどの企業が立地している。

シハヌークヴィル港SEZは、カンボジア唯一の国際深海港であるシハヌークヴィル港に直結するSEZで、日本の有償資金協力によって整備が進められている。2011年12月に完成予定で、港に直結する立地のためカンボジア政府は輸出志向型産業の進出に期待している。

ベトナム国境沿いのSEZでは、日系の紳士服縫製工場が稼働している。2010年には、ポリプロピレンバッグや手袋、縫製業で既に中国に進出している日系企業が追加的な生産拠点として、相次いで同地への進出を決定し、工場建設、投資認可手続きを進めている。ベトナム南部の港や同国から供給される電力などのインフラを活用しながら、先進国向けの特恵関税や投資優遇措置などカンボジアへの投資のメリットを享受できる地域として注目されている。

沿岸部のタイ国境沿いに位置するコックンSEZでは、韓国企業と地場企業との合弁会社により、カンボジア初となる乗用車(現代自動車)の組立工場が稼働しており、在タイ進出日系企業の視察・進出検討が相次いでいる。

カンボジアにおける最大の援助国である日本は、同国の持続的な経済成長などを目指し援助を続けてきたこともあり、同国は投資環境の整備途上であるとの認識が日本企業には多かった。しかし、中国やベトナムなど、周辺諸国における労働賃金の上昇、労働者不足、外資系企業への各種優遇措置の撤廃など投資環境上の課題が顕在化してきたこともあり、カンボジアが新たな投資先の一つとして注目されるようになった。今後も引き続き日系企業の視察、そして進出が相次ぐと予想される。しかし、高額な電気料金や熟練労働者の不足、不透明な行政サービスなど、いまだ改善されていない貿易・投資環境上の課題が残る。今後、投資環境のさらなる改善が期待されている。

カンボジアの対内直接投資<認可ベース>

(単位:100万ドル,件,%)

	2009年		2010年		
	金額	件数	金額	構成比	伸び率
サービス	331.3	2	1,059.1	39.4	219.7
エネルギー	664.7	4	588.8	21.9	△ 11.4
農業関連	589.9	23	554.4	20.6	△ 6.0
観光	3,980.0	3	131.8	4.9	△ 96.7
縫製	90.1	40	128.7	4.8	42.8
鉱業	11.9	2	92.0	3.4	673.1
履物	28.1	8	48.3	1.8	71.9
他産業	149.1	14	45.9	1.7	△ 69.2
食品加工	11.9	4	36.1	1.3	203.4
プラスチック	2.4	2	5.7	0.2	137.5
合計(その他含む)	5,859.4	102	2,690.8	100.0	△ 54.1

[注] 国内資本を含む。経済特別区に入居した企業を除く。

[出所] カンボジア投資委員会。